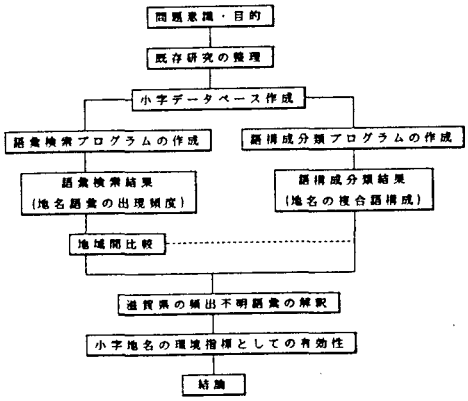
第Ⅳ部門　　小字地名の頻度分析による微地形環境の地域比較

矢作建設工業株式会社　正会員　○望月　昭良
立命館大学理工学部　　正会員　　笹谷　康之
立命館大学理工学部　学生会員　　間島　順哉

## 1．はじめに

小字地名は、先代の人々がある土地において地形の特徴・性質や象徴的なランドマークを適確に読みとって名づけてきたものであり、全国に４５０万個近く存在する。現在行われている環境整備事業などは、どこの地域でも画一的であり、あまり個性がみられない。そこで、小字地名を用いて地形特性を理解したり、人々の空間認識を解明することによって、開発区域や保全区域の基準を設定することは有意義なことである。そこで本研究では、小字データベースを作成し、小字の語彙素の検索プログラム及び小字を語構成で分類するプログラムを作成した。そして、環境指標としてふさわしい小字地名を抽出することによって、量的・質的に小字地名の特性を明らかにする。さらに小字地名の地域的な特性を比較するとともに、滋賀県の小字地名の特徴を示した。図－１に本研究のフローチャートを示す。




図－１　研究のフローチャート

## 2．地域別の語彙出現率

語彙出現率比較表は、滋賀県、茨城県、長野県、福島県、奈良県の５ヶ所の小字データ(合計８４４９８語)を語彙検索プログラムにより検索し、語源によって分類された小字語彙の出現率について集計したものである。ここで出現率とは、(分類された各語彙素／総小字データ数)を示したものである。よって、合計は100%を越えている。表－１より、出現率にばらつきがみられ全国的に共通な語彙素も多いが、各地域にそれぞれ独特な語彙素が存在していることがわかる。奈良では早くから開発された先進地であることから、農耕や集落に関する語彙の出現率が高くなっていると考えられる。福島・長野については地形が起伏に富み、ランドマークとなりうる微地形が多く存在することから、地形語彙が多く出現した。反面そのような地形であるために人の住みにくい場所も多くなり、集落語彙の出現が少なくなったと思われる。また、全ての地域において地形語彙・位置語彙の出現率の高さが目立つ。人々が細かな地形特性を認識してきたことがわかる。

| 分　類 | 福島 | 茨城 | 長野 | 滋賀 | 奈良 |
|---|---|---|---|---|---|
| 地　形 | 50.99 | 59.80 | 52.78 | 31.52 | 21.42 |
| 水　系 | 9.42 | 8.18 | 7.03 | 5.35 | 5.72 |
| 微気候 | 1.31 | 0.87 | 2.30 | 0.07 | 0.12 |
| 地表材料 | 5.93 | 3.88 | 4.56 | 3.14 | 2.38 |
| 植　生 | 3.29 | 2.34 | 3.51 | 2.89 | 1.06 |
| 城　館 | 3.75 | 1.99 | 2.05 | 1.14 | 1.02 |
| 交　通 | 2.78 | 4.19 | 4.84 | 2.72 | 2.75 |
| 農耕生産 | 21.12 | 15.71 | 20.34 | 13.21 | 24.62 |
| 集　落 | 5.90 | 7.06 | 5.19 | 4.48 | 9.30 |
| 信仰儀礼 | 7.95 | 10.50 | 9.85 | 6.42 | 8.59 |
| 新　旧 | 2.55 | 2.84 | 2.51 | 2.50 | 1.74 |
| 位　置 | 42.61 | 52.52 | 46.29 | 42.68 | 40.29 |
| 規　模 | 7.68 | 8.29 | 8.82 | 8.63 | 6.25 |
| 合　計 | 165 | 178 | 169 | 125 | 124 |

表－１　地域別語彙出現率比較表(%)

Akiyoshi MOCHIZUKI, Yasuyuki SASATANI, Junya MAJIMA

## 3．滋賀県の特徴的な語彙

語構成分類プログラムの集計により、滋賀県では他地域には見られない語彙が多く存在していることがわかった。そこで、語構成分類で得られた滋賀県で頻出する語彙素（１１語）ついて、他地域と比較し、その語源及び特性について検討した。このうち３語彙素は、造語力が豊富で、複合語を構成しやすく、出現率の多少はあるものの表－２のように全国的に分布していた。残る８語彙素は、単純語のままで小字地名になりやすく、表－３のように地域的に分布が遍在していた。

複合語を構成しやすい語彙素の語源を以下に述べる。

"出"…語源は、分村・山深く移った集落、あるいは突出した地形を示している。「～出」という形で接尾語的に使われることが多く、滋賀では東西南北・上中下といった語が頭についている。これらが多く出現したということは、小さな村や集落が散在していたと考えられる。

"浦"…語源は、海・湖などの湾曲して陸に入りくんだ所、海岸・水際またはその内部・内側を示している。東西南北に「～浦」が接続する例が多かった。滋賀の場合、琵琶湖を対象とした湖岸周辺であろう。人々が古くから琵琶湖をランドマークとして認識していると考えられ、滋賀県独自の"浦"の解釈の可能性もある。

"反田"…「～段の田のある所」のことで、語頭に数字をつけて接尾語的に用いられる。その起源は中世とも近世とも考えられる。滋賀では三～八反田のものが多く出現した。"反田"以外にも、"新（神）田"、"門田"、"作リ田"等の、"田"がつく農耕生産に関する小字地名が他にも数多く存在した。

"雨降""広""風呂""大将軍"の語彙は、滋賀県で特有の小字地名であり、他のどの地域にも出現しなかった。これらの小字の特徴は、"流（レ）""雨降"のように、その地域の地名が崩壊地形であったり浸食地形を表しており、人々が生活するのに適していない場所を示すものと、"広"のように人々が集まる快適な地形を表すものの両者が存在していることである。また滋賀は、その中央に琵琶湖が存在し、内湖・沼地・湿地が多かったことから、"フケ""風呂"といった語彙が出現したと考えられる。"馬場""大将軍""横枕"のように、条里制や荘園制にちなんだ地名も多く出現し、歴史的環境がよく残されていると考えられる。このように地名は、古くから人々の生活に密接して、微地形と関わり合いが深かったと考えられる。

| | ～出～ | ～浦 | ～反田 |
|---|---|---|---|
| 滋賀 | 2.73 | 1.30 | 1.01 |
| 福島 | 0.20 | 0.10 | 0.34 |
| 茨城 | 0.38 | 0.12 | 0.71 |
| 長野 | 0.59 | 0.51 | 0.57 |
| 奈良 | 0.72 | 1.11 | 1.53 |

表－２複合語を構成しやすい語彙素の地域比較（%）

| | 流レ | 雨降 | 広 | 風呂 | フケ | 馬場 | 大将軍 | 横枕 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 滋賀 | 0.23 | 0.19 | 0.19 | 0.22 | 0.23 | 0.26 | 0.17 | 0.27 |
| 福島 | — | — | — | — | — | 0.13 | — | — |
| 茨城 | — | — | — | — | | — | — | 0.04 |
| 長野 | 0.04 | — | — | — | 0.01 | 0.07 | — | 0.02 |
| 奈良 | 0.07 | — | — | — | 0.02 | 0.14 | — | 0.12 |

表－３単純語となりやすい語彙素の地域比較（%）

## 4．まとめと今後の課題

小字語彙の出現頻度により、起伏がある地域には地形語彙が多く出現し、開発が進んだ平野部の集落や農耕の多い地域では集落語彙・生産語彙が多く出現することが確認でき、頻出語彙からはランドマークとなりうる地形の特徴を読みとることができた。小字語彙の地域比較によると、全国的な語彙素については環境条件を比較するのに適し、地域的な語彙素については歴史的・地形的に人々が認識してきた環境の特徴を示している。また、滋賀県に特徴的な語彙素について、その語源と特性を明らかにすることができた。

小字を用いた研究は、各地の郷土史家の手によって行われているが、データベースを用いて量的な裏付けのもとに研究されていない。また、それらの研究の大部分が、計画への展開を前提としていない。本研究では小字地名を活用したアースデザイン手法の提案を行うため、基礎的な調査・分析・比較を行った。今後、地名による環境評価を可能とするため、全国的により大規模なデータベースを構築し、小字地名のもつ景観的特性や空間特性を調査・比較分析していくことが大きな課題となる。

参考文献　笹谷康之他（1989）：小地名を用いた環境情報の研究　日本都市計画学会学術研究論文集No.24